

「県立高校改革推進プラン・第2次実施プログラム（案）」県民説明会 船橋会場 1回目

- 1 日 時：令和7年6月24日（火曜日）午後6時30分から午後8時15分まで
- 2 場 所：船橋市三咲公民館 講堂
- 3 内 容：「県立高校改革推進プラン・第2次実施プログラム（案）」の説明と質疑
- 4 参加者：27名
- 5 主 催：千葉県教育委員会

意見聴取の概要

Q なぜ、船橋市の人口は増加しているにもかかわらず、船橋豊富高校と船橋北高校を統合するのか。

A 高校再編を検討するにあたっては、人口ではなく、地域の中学生の数、今後見込まれる中学校の卒業生数の見込みを参考にしております。高校再編のプランを令和4年度に策定し、新しい10か年計画のプランを出した際に、中学校卒業生数が今後10年間で、船橋市で500人減るという推計が出ているため、その数値を基に検討いたしました。

Q なぜ、船橋豊富高校の校舎を使用するのか。

A 対応できる教室の数や学校の敷地面積、通学の利便性を考慮したうえで判断いたしました。また、具体的には、両校の学びを継承していきたいというのが我々の理念であります。例えば、現在、船橋豊富高校にある、福祉コースや情報コースで、非常に魅力のある学びを展開しています。福祉を学ぶにあたって、ベッドなどの介護施設が多く設置されており、そのような施設設備を移動する必要がなくそのまま使えるというのが、まず理由の1つです。

2つ目といたしましては、交通アクセスの面です。確かに船橋北高校は、京成三咲駅からのアクセスを考えると、船橋北高校の方が良いです。ただ、両校の在籍している生徒の割合からすると、船橋市や八千代市、白井市の小室方面からも一定の割合の生徒が通学しており、バス路線で考えると、北習志野駅と小室駅を結ぶバスルートがあります。このバスルートは豊富高校の方だけが止まると確認しております。

3つ目といたしましては、敷地面積について、船橋豊富高校の方が約4000平米、4000㎡以上、面積が広く、今後教育活動に非常に柔軟に対応できると判断いたしました。

4つ目といたしましては、自転車通学の生徒が非常に多く、通学区域からすると、白井や小室方面からも多くの生徒が来ているため、船橋北高校の方が、交通の利便性が高いとは言い切れないと思います。両校とも、自転車で通いやすい地域であると判断しており、使用校舎を考えております。

Q なぜ、船橋豊富高校の方が、利便性が高いと言えるのか。

A 現在、両校の在籍している生徒の8割から9割が自転車通学です。両校の離れている距離も数キロというところであり、自転車で通学する生徒が多いという状況から、どちらか一方が、圧倒的に利便性が高いとは言い切れないと思います。豊富校舎の使用については、様々な視点で検討し、総合的に判断しております。

Q 自転車で通学する生徒が多い中で、交通の安全性について検討したのか。

A 実際に船橋北高校からバス停の通りに出て、歩道も歩きました。周辺についても確認をいたしました。また、車でも通りを走り、通行量や交通量が多く、自転車で通学するには注意すべき道路であると思いました。

この点は、船橋のこの地域の道路に限るものではありません。県教育委員会では、千葉県内の高

校生の自転車の交通事故はとても多い状況であると認識しており、ヘルメットをかぶることなど、子供たちへの安全指導をしています。全県的に自転車の安全な通学ということは課題でありますので、統合校にかかわらず、全県で、改めて自転車の安全な利用方法について指導していきたいと考えています。

Q 船橋豊富高校を使用することについて、生徒の通学や教職員の通勤の分布の確認をしたのか。

A 学校が仮に統合して、一部の職員の通勤距離が遠くなることは、可能性があると思います。職員もいろいろな地域に住んでいます。八千代市や船橋市内に在住している職員もいれば、船橋市の北部、南部、東部、西部、または隣接する白井市から通勤している職員もいます。船橋北高校が船橋豊富高校に仮に統合したことで、自宅から遠くなる先生もいるでしょうが、逆に近くなる先生もいるかと思っています。

Q 統合について、地元の声や生徒の声、教職員の声を聞いたのか。

A 幅広く生徒や先生方の御意見を聞くため、今回パブリックコメントについても、従来よりも長めに設定しており、約60日間としています。また、県民説明会についても、千葉県県立高校を統合するにあたっては、以前までは各地区1回ずつの開催でしたが、今回から、より丁寧に御説明したいということと、1回目に仕事の関係とかで参加できない方にも参加していただけるようにすることを考え、各地区2回ずつの開催に変更したところです。より多くの方に御参加いただき、幅広い御意見をいただきたいと考えており、高校生の皆さんや先生方の御意見も参考にしたいと思っています。

Q 船橋豊富高校に整備してある備品やこれから保護者会の予算で体育館に整備する予定でいる備品について、どのように考えているか。

A 現在のプログラム案としては、統合後に船橋豊富高校の校舎を活用するということで考えています。現在は案として提示しておりますが、仮に船橋豊富高校の保護者会の皆さんの御厚意で体育館に立派な施設設備を取り付けていただければ、うまく引き継ぎ、しっかり活用していきたいと考えています。

特に、今の案では船橋北高校の校舎は使わないということになりますので、船橋北高校の生徒さんや卒業生の皆さんからすると、自分の母校がなくなる、今通っている学校がなくなるといった寂しさや複雑な気持ちがあることは十分わかります。そのような気持ちにもしっかり寄り添ったうえで、船橋北高校で積み上げてきた素晴らしい伝統や歴史などをしっかり引き継ぎ、今までにない魅力ある学校にしていきたい。皆さんの思いのある学校をより発展させていくことが統合であるということを丁寧に、両校の生徒の皆さんに説明していきたいと思っています。そこは、校長先生をはじめ両校の先生方の御協力を仰ぐことにはなりますが、今考えている、千葉県の教育、県教育委員会の思いをできるだけわかりやすく生徒に伝えていきたいと考えています。

Q 船橋豊富高校に福祉の教育を取り入れているが、就職につながる学びをどのように考えているか。

A 県教育委員会がこれから目指すべき県立高校のあり方というところに一致しているところが多くあります。まず、高校生世代の若者たちにとって、世の中には幅広く様々な職業があり、自分の適性や、自分に合う仕事とは何かを学ぶことは、とても大切なことです。いわゆるキャリア教育となりますが、現在考えている船橋地区の統合校については、船橋豊富高校の校舎を使用し、今まで両校とも普通科の高校でしたが、総合学科を設置することで学びを深めていくことを考えています。

総合学科とは、生徒の興味や関心、自分が希望する進路に応じた、多様な選択科目を配置することを特徴としています。1年生のときに、「産業社会と人間」という科目を通じて、世の中の幅広

い職業や、仕事、進路などを学びます。2年生では、系列という複数の学びのグループを設置しており、系列の中には、船橋豊富高校で実践している福祉の系列や情報の系列を、船橋北高校で頑張っている部活動に関するスポーツの系列、また、進学を目指す生徒の普通科の系列など幅広く設定していきます。そして、自分の希望する進路に合った学びを選択できるような夢のある学校を作っていきたいと考えています。

Q 生徒が目的意識を持ち、はつらつと生きる学校づくりをどのようにしていくのか。

A スポーツや部活動というのも、高校教育の1つの魅力だと考えています。ただ、船橋豊富高校に関しては、現在の生徒数がとても少なくなっている状況で、チームスポーツなどの運営が厳しくなっています。高校は、ある程度の仲間、ある一定の規模の生徒集団があり、その中で、切磋琢磨し合ったり、チームスポーツのために打ち込んだり、勉強もライバル関係を作って共に頑張ったりすることが必要だと考えています。人数が少ないからそういうことはできないと言っているわけではありません。人数が少なくても、もちろん切磋琢磨することはできます。しかし、より多くの仲間と、そのような関係を築くには、ある程度大きな規模の生徒集団が必要だと思います。それも県教育委員会が統合を計画している1つの大きな目的ですので、統合することで、生徒が増え、部活の生徒も増え、そしてみんなで、テニスコートを手入れしたり、グラウンドを掃除したり、体育館を手入れしたり、仲間と一緒に部活やスポーツをする環境を整えて、より夢のある高校生活が送れると考えています。

Q デイサービスや介護の企業と高校の連携した取組による地域に根付いた魅力づくりをどのように考えているのか。

A 福祉の部分で専門的なアドバイスをいただきありがとうございました。ベッドメイキングだけではなく、デイサービスや時代が求めているものがあると思います。そのような学びを企業と連携してやっていくべきであると考えています。これから福祉の系列を仮に設定したときに、できるだけ学校内だけで取り組むのではなく、外部とうまく連携し、社会に求められる人材を育成していきたいと考えております。

Q 現在通っている生徒に対して、不安など抱えている生徒がいるということを踏まえて、フォローやサポートしてくれることはないのか。

A 現在通っている生徒が、卒業した後に統合することになりますが、自分が通っている学校が将来なくなってしまうということは、やはり気持ち的にとても寂しいと思います。様々な思いがあるということは十分理解できます。ただ、千葉県としては、廃校ではなく、統合としています。どちらかがなくなるのではなく、2つの学校が統合し、より魅力ある学校にしていくという前向きな計画です。在校生の皆さんが卒業した後に、よりこの学校が発展していき、今まで船橋北高校や船橋豊富高校で培ってきた歴史とか伝統などをうまく融合させ、引き継ぎながら、総合学科というこの新しいタイプの夢のある学校にしていきたいと考えています。

また、残り2年半で、どこまでできるか明確にお伝えできませんが、学校もできるだけきれいに改修していきます。トイレや外壁も改修するなど準備を進めています。在校生の母校がすごく夢のある学校に発展していくと御理解いただけるように、校長先生を通じて、在校生の皆さんに、説明していきたいと考えています。そこは県教育委員会としてしっかりやっていきたいと思っています。

Q 県議会で全会一致した25人学級推進について、どのように反映してきているのか。

A 高校の学級編制については、いわゆる標準法という、「公立高校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」という国の法律に基づいており、1学級の生徒数は、40人を標準としています。

Q プログラム（案）ということだが、もう決定事項ではないのか。

A これはまだ現時点では（案）であり、県民説明会は、統合に関して各地区で2回ずつ行っています。パブリックコメントもまだ、1か月ほど期間が残されております。そこで多くの皆さんからいただいた御意見を真摯に受けとめ、ぜひ参考にしていきたいと思っています。

Q 適正規模として都市部で6～8学級、県東部や南部で4～8学級と示しているが、その根拠は何か。

A 適正規模については、特に国で基準が決まっているわけではありません。これは千葉県として設定している基準であり、高校生世代にとって、多くの友人や教職員との出会いや、そのような中で互いに切磋琢磨する機会を確保し、教育課程についても、ある程度の教員の数がいて、教育課程をより柔軟に編成することで、活力ある教育活動を展開するためには、ある程度の適正な規模が必要であると考え、千葉県で定めている基準です。そして、これは千葉県だけではなく、他の都道府県でも定めていることがあります。

Q 少人数学級について、どのように考えているのか。

A 確かに少人数で授業を展開することは非常に魅力があると思います。現在、様々な生徒のニーズが多様化する中で、個別最適な学びとして、丁寧に、よりきめ細かく指導するには、少人数の教育は非常に魅力があると思います。それは、40人学級であっても、習熟度別学習や選択科目で少人数学習を実践することはできます。1学級に40人ということは国の標準であり、法律で決まっています。学級編制は40人であっても、可能な限り配置されている教員の数をうまく活用し、カリキュラムマネジメントで、少人数学習の場をつくることで、少人数指導のメリットを十分に生かせる教育課程が組めればよいと考えています。

Q トイレなど校舎を整備するということだが、統合校以外には実施しないのか。

A トイレの改修に関しては、決して統合する学校だけ行うということではありません。県内の県立高校は、トイレの洋式化も含めて、改修を順次行っているところです。